

## 第9回 関西鑄造技士会での講演を終えての報告

日時： 2025年3月14日(金)

場所： 近畿大学 東大阪キャンパス

この度は、関西鑄造技士会様より講演のご依頼をいただき、近畿大学にて鑄造関連企業の若手技術者向けに木型業界の最近の取り組みについて1時間ほどお話をさせていただきました。

今回のテーマは、木型屋という職業の認知度向上や、鑄物・木型業界の全体的な就職率向上のための弊社の活動についてです。大きく分け以下の3つ、①自社ブランドの立ち上げ(BtoC事業) ②産学連携プロジェクト ③SNSの活用 を数年にわたり取り組んできた事で、木型への認知度向上や、木型屋という職業にやり甲斐を持ち勤続しやすい職場環境の構築、そして新卒採用に繋がったこと等をお話いたしました。

質疑応答では10社ほどからご質問をいただきました。やはり人材に関する内容、「魅力の発信」や「認知を広げること」についての共感等が多くこの問題について切実に考えられている方々が多いことを実感し、この講演での今回のテーマは意義深いものであったと感じました。

また今回登壇されたコマツの氷見工場の水野様とお話した内容が印象に強く残っております。

「ものづくり」の一言の中にも

**①生産技術的な楽しさ →より安く、効率的にものを作るように工夫する面白さ**

**②ものを作る楽しさ →形を工夫する面白さ** のように種類が分かれており

水野様の立場としては①が強く、弊社のように模型製作をしている立場では②が強い印象であると。ものづくりの本質はやはり楽しむ事です。①だけでも②だけでも成立せず、①と②を融合していく組織作りが必須だと感じております。昨今様々な省人化に向けての様々なツールが進化してきておりますが、脅威として捉えるだけでなく、どう駆使して付き合っていくのがポイントになるかと思えます。そこを考えていくのはやはりヒトなので、その可能性や将来性を高めていく為には木型の魅力を発信し続けていく必要があると再確認させられる機会となりました。

最後になりますが、関西鑄造技士会の方々はどの方も好奇心や学ぶ姿勢が強く、講演会から懇親会に行く道中や懇親会では様々な方から質問やお話しをしていただきました。そして代表の方だけではなく複数名の社員さんも参加されている事が、会社全体で鑄造業界の悩みを解決したいという気持ちや、新たなチャレンジに向かう気持ちを感じ、こちらにもまた刺激を受けました。

この度はこのような機会を与えていただいた、関西鑄造技士会様、日本木型工業会様に深く感謝申し上げます。今後とも素型材産業の将来に向けて尽力いたします。

株式会社村田木型製作所  
代表取締役 村田誠

